

高帆
GAO Fan



儂徊
アクリルガッシュ、木製屏風

儂徊

年を重ねると共に、「死」という概念もだんだん鮮明になっていく。身内だけではなく、幼少期に活躍してた芸能人たち、友達の家族など、自分はこの人達といつか別れをば告げなければならない。

死が訪れた後から魂が解放されると思っているので、人という容器に縛られず、でもそこは命の終わりでもなく、新たな型として、死後の世界をしばらく滞在して、まだどこかで生まれ変わるのが私が思った生死観である。生きている時に受けた苦しみも無くなって、死後の世界に自分が望んでた空間で生きていられる。

誰かの考えと合わせるでもなくて、東洋と西洋の死後の世界や葬儀文化に興味があったから、それを研究したことがあるので、それも理想の世界の一つだと思うようになった。ある意味では死と夢は紙一重、眠る長さの違いなので「死 夢 精神の安らぎ」というテーマで創作を始めました。合わせて作品を見るもいいし、ただ夢だと思って、精神の安らぎだと思って見てもいいです。

修了制作では、空間作りや遮断用の屏風を基に書くことになった。死後の世界はこれからの居場所ではなく、魂を休ませるところだと思うので、「儂いどころ」になってほしいと「彷徨うどころ」の認識を組み合わせ「儂徊」という造詞を作った。制作の中で自分は考えた死後の世界のあり姿を描くことを中心してる。その中で自分の自由意思の表れである、オリジナルキャラクター「トピコ」を描くことで、世界観を更に細かく伝わる。画面の中で「蘇生」「繰り返す」「産む」など、生死を表すものが多数描けている、例えば鏡、海、月それと永遠に生きる幻獣のトピコ達、この暖かい色が満ち溢れる世界でゆっくり休んで、命の巡りを見ることができるところができる空間のことを、観る人に伝わりたいと思う。